

中国のほんの話(21)

罵詈雑言の中の起き上がりこぼし
『女優・趙薇(ヴィッキー・チャオ)』

蔭山 達弥

アメリカの映画『チャールズ・エンジェル』の三人娘に負けるものかと、アジアを代表するヴィッキー・チャオ(中国)、スー・チー(香港)、カレン・モク(台湾)の三人娘がスクリーン狭しと暴れまくるサスペンス映画『クローサー』が去る3月29日より全国ロードショー公開されている。三人娘の一人、ヴィッキー・チャオは中国の旬を代表する女優の一人である。『少林サッカー』にも出演し、北京の銭湯を舞台にした『こころの湯』で有名な男優・姜文と共演する『緑茶』もクランクインした。

趙薇(ヴィッキー・チャオ)ほど毀譽褒貶が相半ばする女優はめずらしい。記憶に新しいところでは、2001年11月に発売された中国のファッション誌『時装』のグラビアに登場した彼女のファッションが物議をかもした。趙薇が着たドレスが日本の旭日旗(旭日を描いた旗、もと日本の軍旗・軍艦旗などの類)に非常に似ていたため、出版社には「中国人民を傷つけた」と非難が殺到した。趙薇側は「服にプリントされているように、テーマは平和・幸福・健康です。」と弁明したが、彼女の地方コンサート会場では群衆から糞便を投げつけられる騒ぎにまで発展した(2001年12月28日、湖南省長沙体育館)。今年に入って、ようやく騒ぎも一段落したのだろうか、映画『クローサー』の公開にスー・チー、カレン・モクの二人と共に来日した。

趙薇は今年24歳、アジアで唯一の映画専門の大学、北京電影学院(北京映画学院)に在学中から映画、テレビドラマに出演し、時代劇ドラマ『環珠格格』の主演で大ブレイク、彼女の名前を一躍、中国中に知らしめることとなった。小中学生が勉強そっちのけで、趙薇に夢中になり、青少年の教育に良くないという大人たちの心配をよそに、彼

女の母校、北京電影学院には毎年スターを夢見る受験生が殺到し、ここ数年、合格倍率は百倍を超えている。

しばしば、スターのスクリーン上での虚像と私生活での実像のギャップが言われるが、趙薇も彼女自身が言っているように実は内向的な女の子である。娯楽新聞記者・謝曉のインタビュー集『スターとの対話』(中国廣播電視出版社、2002)によると、趙薇の母親は音楽の教師をしていて、彼女自身も幼稚園が小学校の教師になりたかったそうだ。趙薇の両親は彼女を厳しく躾けなかったようで、テストの点がちょっと好かっただけで非常に喜んだらしい。両親共に生涯を通じて名誉と利益にはあまり縁がなかったが、「平凡は凡庸ではない」という両親の考え方は彼女に大きな影響を与えたようだ。「名を成した後の、あなたの最大の望みは」という質問に対して、「考えたことないわ。自分はすでに沢山のものを得たと思っているし、これ以上そんなに多くの望みはないの。現在の仕事にベストを尽くせばいいわ。」という返答がすべてを語っていると思う。

そんな趙薇のことをもっと知りたいファンのために、昨年5月、上海のテレビ雑誌『上海電視』の男性記者・簡平が執筆した『趙薇は私に語る/趙薇と話す』が出版された。この本は彼女の撮影現場や記者会見場でのカラーのポートレート写真が15枚も挿入され、それ以外にも白黒の写真がふんだんに折り込まれ、ファンには垂涎の一冊となっている。その中で彼女は「私は今、勇敢に現実と向き合い、自分と向き合える。私は芸術面で新たな境地と進歩を生み出し、皆さんにより多くのより良い作品を見てもらえるだろうという信念に満ちている。」と言っている。彼女の今後の成長に期待したい。

かげやま たつや(助教授・中国文学)

